

英語英文学科

「英米文学」「英語学・言語学」「国際コミュニケーション」の分野

英詩の世界／
『赤毛のアン』の世界教授 赤松 佳子
(専門分野：英米詩・カナダ文学)

英詩が分かると、英語の特徴がよく分かります。英語で書かれた詩の鑑賞法を、お話しします。／カナダの長編小説『赤毛のアン』には、英語ならではの表現や、翻訳の題材として最適な要素が詰まっています。両者を解説し、英語圏文学を読む面白さを語ります。

日英語翻訳・比較

教授 木津 弥佳
(専門分野：言語学・第二言語習得・翻訳)

日本語と英語の文法や文体などを比較して、両言語の共通点と相違点を探ります。また、日英間の翻訳を行う際に生じる文化的問題等を挙げて、翻訳が異文化理解の作業となっていることを示します。

大学での言葉の学び方
－言語学の見地から教授 坂口 真理
(専門分野：英語学)

日本語話者が英語を学ぶ場合をドイツ語話者が英語を学ぶ時と比較して、難しいかやさしいかを考えます。また、音声学的にみて、日本語話者が英語に習熟するコツを伝えます。

What is Literature and
Why is It Important?教授 David Ramsey
(専門分野：Literature & Culture Studies)

The presentation demonstrates that literature is all around us as part of our daily lives. It also explains that literature includes cultural, historical, political, religious, psychological, sociological, and economic aspects.

イギリス文学を楽しむ

准教授 松井 かや
(専門分野：イギリス・アイルランド文学)

『フランケンシュタイン』や『ガリバー旅行記』といった有名な作品を入口に、文学と社会の関わり（ジェンダーや労働、人間関係、差別など）について考えます。ストーリーを味わうだけではない、文学を読む／学ぶ楽しみや意義についてお話しします。

Storytelling & Culture

准教授 Kate Bowes
(専門分野：Intercultural Communication)

Stories are a fun way to build your communication skills. They often open up new worlds to explore and reflect on. We will practice storytelling and discuss cultural values and experiences.



Department of
English Language and Literature

英語英文学科

「英米文学」「英語学・言語学」「国際コミュニケーション」の分野

Dictation Practice

准教授 Carolyn Swierski
(専門分野: Language & Drama)

Being able to correctly repeat what you hear, is a sign that you have understood what the speaker is saying. Dictation is a tool that I use in my classes to build up students' listening, memory, and pronunciation skills. We will practice together to determine your strengths and weaknesses to see what needs work.

How to Be a Global Citizen

准教授 Thomas Fast
(専門分野: Global Citizenship Education)

Students will learn about problems in the world and how they, as global citizens, can help to fix them.

日英語比較

講師 山口 麻衣子
(専門分野: 言語学)

日本語と英語の共通するところ、異なるところについていくつか見ていきます。ある表現の意味する範囲が必ずしも2言語間で一致しないことを知っていることで、学習者は誤った表現(訳)を避けることができるようになります。



Department of
English Language and Literature

日本語日本文学科

「日本文学」「日本語学」「書道等の言語文化」の分野

平城びとの遊び心と 『万葉集』

教授 東城 敏毅
(専門分野：日本文学(上代))

日本で最古の和歌集『万葉集』を読みます。『万葉集』は、平仮名ができる前の歌集のため、全て漢字で歌が記されています。その漢字の書き方から奈良時代の生活が垣間見られ、歌の内容とは別の世界が映し出されます。平城びとの世界を発見してみましょう。

ヒーローの条件 —平安期物語の人物と表現—

教授 中井 賢一
(専門分野：日本文学(中古物語))

「ヒーロー」と聞くとどんな人物をイメージしますか？ 平安期の物語には、私たちの常識とは少し異なる「ヒーロー」が多く登場します。平安期物語ならではの背景や表現に注目することで、彼らが「ヒーロー」たりうる条件について考えます。

「初恋」のかがかく

講師 江草 弥由起
(専門分野：日本文学(中世和歌))

現代ミュージックでも古典和歌でも、多くの恋が歌われています。経験した恋を歌うこともあれば、「恋」を題に歌うこともあります。「初恋」の和歌から、恋の歌、恋のふるまいとは何かを考え、現代の美意識についても考えていきましょう。

坪田譲治と岡山

教授 山根 知子
(専門分野：日本文学(近現代の児童文学))

日本における「リアリズム児童文学の祖」と評される岡山出身の坪田譲治は、岡山を舞台とした作品を数多く生み出した作家です。岡山での譲治の体験を知り、「幼時に知った幸福」に支えられた譲治文学を分析することで、郷土の魅力と文学の力を見出しましょう。

小説を飛び出した作家たち

教授 長原 しのぶ
(専門分野：日本文学(近現代の小説))

近代小説の文豪や現代小説の人気作家が作品の世界に留まらず、様々なメディアでキャラクターとして活躍しています。彼らの魅力とは何か。太宰治を中心にその作品を読み解くことで現在の社会がつくり上げる作家像を明らかにし、受け容れられる理由を探ります。



Department of
Japanese Language and Literature

日本語日本文学科

「日本文学」「日本語学」「書道等の言語文化」の分野

敬語のしくみを考える

教授 尾崎 喜光
(専門分野：日本語学 (社会言語学))

日本語の特徴の一つに敬語があります。「行きます」の「ます」、「(そこに)いる」に対する「(そこに)いらっしゃる」などが代表的な敬語です。では、こうした表現が敬語としての働きを持っているのはどういう原理によるのでしょうか。それを考えます。

言葉の意味を ”考えて”みよう

准教授 星野 佳之
(専門分野：日本語学 (古代語、現代語))

言葉の意味は辞書で”調べる”ものというのが普通でしょう。知らない言葉についてはそれが近道ですが、では“知っている言葉”はもうそれ以上考えるべきことはないでしょうか。普段考えることなく使うからこそ、言葉について立ち止まって考える講義です。

ブックコミュニケーション

教授 伊木 洋
(専門分野：国語科教育学)

ブックコミュニケーションとは、本との思い出や本をきっかけに考えたこと、気付いたことなどを自由に語り合うものです。新たな読書活動として、かたわらにお気に入りの本を置いて、思いを語り合みましょう。

仮名の書き方を考える

准教授 家入 博徳
(専門分野：書道、書道科教育学)

書では平仮名以外の文字も仮名として使用しています。例えば、「阿」や「悪」も「あ」として使用しています。したがって、それらをどのように使用して書くのかを考えます。また、古典において仮名がどう書かれてきたかについても見ていきたいと思います。

情報化時代の読書と バリアフリーを考える

准教授 近藤 友子
(専門分野：図書館情報学)

近年はバリアフリーという言葉が聞くことが多くなりました。図書館においてもバリアフリーについて考える視点は欠かせなくなっています。情報化時代における図書館を視点とした読書とバリアフリーとの関わりについて考えていきましょう。



Department of
Japanese Language and Literature

現代社会学科

「社会学」「歴史学」「考古学」「地理学」の分野

ニッポンを支える外国人労働者

教授 二階堂 裕子
(専門分野：地域社会学)

今、私たちの社会を多くの外国人が支えています。ただし、いつまでも外国人がニッポンで働いてくれるとは限りません。この講義では、外国人の就労や生活の状況を取り上げたあと、これからも外国人に「ニッポンを選んでもらう」ために必要なことを考えます。

瀬戸内・岡山の環境とSDGs

教授 濱西 栄司
(専門分野：社会集団・組織論、環境社会学)

公害やプラスチックごみ問題、太陽光発電。具体的な事例で、気候変動やエコロジー、SDGsについて考えます。地域・行政・企業との連携活動について高校からのアイデアも募集中。

ジェンダーの視点を使いこなす

教授 山下 美紀
(専門分野：家族社会学)

ジェンダー研究は、いまや現代人の必須の知識です。世の中で起こっているさまざまな現象をジェンダーの視点から読み解いてみましょう。新たな発見にワクワクすること間違いなし。

自動運転技術をめぐる倫理と宗教文化

准教授 福田 雄
(専門分野：宗教社会学)

自動車の自動運転技術の導入は、事故件数の大幅な減少をもたらす一方で、それでも起こる人身事故についての責任問題をどうするかという社会的ジレンマをももたらします。本講義では、私たちが自動車をどのような倫理をプログラミングするかという問題を通じて、現代社会における宗教文化について考えます。

地図・GISから地域の自然環境や社会環境を考えよう

教授 森 泰三
(専門分野：人文地理学)

地理学は、「地域」・「場所」にこだわって、それぞれで見られる事象について、「探究」する学問です。そこで重要なのが地図であり、課題を発見したり、探究した内容について地図を利用して可視化したりします。また、コンピュータ上のデジタル地図に位置や空間に関する情報を統合したGISも身近にあります。地図やGISから地域の自然環境・社会環境を考えましょう。

戦争と民衆

—アジア太平洋戦争下の岡山空襲を素材に—

准教授 久野 洋
(専門分野：日本近代史)

戦争で命を落とすのは、たいていの場合、権力者ではありません。戦場に行く兵士であり、私たち一般の市民です。過去に戦争が起こったときに、権力者たちはどう振る舞い、社会はようになったのか。本講義では、岡山空襲を素材にして戦争と民衆の関係を考え、歴史を学ぶ意味を問い直します。

現代社会学科

「社会学」「歴史学」「考古学」「地理学」の分野

「纏足(てんそく)」から みた中国文化

教授 鈴木 真
(専門分野：アジア社会史)

かつて中国には、「纏足(てんそく)」と呼ばれる独特な文化が存在しました。これは女性の足の成長を阻害し、人為的に小さな足をつくりだすものでした。現代日本とは異なる価値観の下で行われたこのような文化が、千数百年にも亘って続いた背景を解説します。

中世ヨーロッパの騎士

教授 轟木 広太郎
(専門分野：ヨーロッパ社会史)

ヨーロッパの中世はよく騎士の時代といわれます。騎士はたしかに戦場、社会、文化の中心にいました。その戦闘方法、領主としての生活、文学とのかかわりについて紹介します。

考古学の力

教授 紺谷 亮一
(専門分野：考古学)

私はトルコ共和国キュルテペ遺跡で発掘をしています。トルコを含む西アジア地域は、都市・農耕・牧畜・文学・交易が地域に先駆けて開始された場所です。つまり、かつて人類史において最も先進地域だったのです。この点を明らかにしたのは考古学の力です。では、考古学にはなぜそのような力があるのでしょうか？



Department of
Contemporary Sociological Studies

人間生活学科

「経営・経済学」「社会福祉学」「人間関係学」「生活環境学」
 「被服学」「調理学」「住居学」の分野

世界の人口と食料問題

教授 清水 純一
 (専門分野：食料需給問題・ブラジル農業)

20世紀になり、世界人口が急激に増加しました。これに対して、食料生産も負けないスピードで増加したため、全体として、食料は足りています。しかし、食料の分配では世界の中には大きな格差があります。この事実をどう捉えたらよいのか皆さんと考えてみます。

福祉の先駆者に学ぶ

教授 杉山 博昭
 (専門分野：社会福祉学)

社会福祉を先駆的に切り開いた人物を取り上げ、その歩みをたどっていきます。特に岡山出身者に多くいるので、岡山に関係する人を取り上げていきます。

数理・データサイエンス・AIを学ぶ

教授 大東 正虎
 (専門分野：情報技術論・社会シミュレーション)

情報技術の活用が盛んになり、さまざまな活動がコンピュータに記録されるようになってきました。企業や自治体などにおいて、これらのデータを分析、活用できる人材に期待が寄せられています。本講義では、数理・データサイエンス・AIの概要を述べます。

生活力を高めるための金融教育

教授 豊田 尚吾
 (専門分野：生活経済学)

高校でも金融教育が始まっています。それだけ現代における金融リテラシー獲得の重要性が高まっていることを意味しています。ファイナンシャルプランナーの資格を持つ教員による、家計管理からFIREまで、身近な話題をもとにお話しします。まずは第一歩を踏み出しましょう。

マーケティングのイマとミライ

教授 深谷 信介
 (専門分野：マーケティング、都市デザイン、モビリティ)

あらゆる環境が目まぐるしく変化し、予測できない状態が続く現代を「VUCAの時代」と呼ぶようになりました。今、マーケティングが、資本主義が、大きな変曲点に差し掛かっています。私たちは何を学び、どう革新していけばよいのでしょうか？そのヒントを皆さんと考えていきたいと思えます。

ボランティアって何だろう

准教授 中井 俊雄
 (専門分野：ボランティア・福祉)

ボランティアって何だろう？ 困っている人がいたら、災害がおこったら…。自分のことだけでなく、ほんの少しの思いやりと勇気をもって、自分に何ができるのか考えていただくためのヒントをお伝えします。



Department of
Human Living Sciences

人間生活学科

「経営・経済学」「社会学」「社会福祉学」「人間関係学」「生活環境学」
「被服学」「調理学」「住居学」の分野

これからの住まいづくり・まちづくりを考える

准教授 成清 仁士
(専門分野: 建築史・意匠学、まちづくり)

中心市街地活性化に係るまちづくりの実務経験及び住民主体のNPOと協働した歴史ある住まいを再評価し受け継いでいくための活動経験を踏まえて、これからの住まいづくりやまちづくりを考えていくための視点を多角的に取り上げて講義します。

メディアミックスの時代 —コンテンツ産業の戦略と展開—

准教授 葉口 英子
(専門分野: 広告論・メディア文化論)

日本のマンガ・アニメといったコンテンツは国内外でも高い人気を得ています。その背景にコンテンツ産業のプロモーションの特徴でもあるメディア・ミックスという仕組みが大きく作用しています。メディアミックスについて最新の事例をあげ、制作・流通・宣伝にみる戦略や展開を解説します。

ソーシャルワーカーから学ぶコミュニケーション

准教授 濱崎 絵梨
(専門分野: 高齢者福祉論・ソーシャルワーク)

「コミュカ=話がうまい」ではありません。コミュニケーションスキルについて、人と人、人と社会を「つなぐ」専門家であるソーシャルワーカーの技術から学びます。ちょっとしたコツを身に付けましょう。



Department of
Human Living Sciences

児童学科

「心理学」「教育学」「児童福祉学」「児童文化学」
「芸術（美術・音楽）」「特別支援」の分野

感性を育む

～歌唱表現やリズム遊びを通して～

教授 池田 尚子
(専門分野：音楽)

私たち大人は、子どもたちが音楽を聴いたり表現したりするときにどのような働きかけができるのでしょうか。感性を育み、美しいものを美しいと感じるだけでなく、より深く感じる心は、日々の豊かな経験から育まれていきます。歌唱やリズム遊びを通して一緒に考えてみましょう。

子どもと絵画の世界

教授 小田 久美子
(専門分野：美術教育・造形)

子どもの絵に関する研究は、始まって150年ほどと、他の学問の歴史と比較すると実はそう長くはありません。20世紀を代表する画家をはじめとした、多くの現代人の心をとらえる子どもの絵とその世界の魅力を、新しい学問として一緒に考えてみましょう。

色を作る

教授 片山 裕之
(専門分野：絵画)

絵画（色）遊びは子どもの感受性を養います。色彩の基本である三原色について、実技を通して理解を深めてもらいたいと思います。

絵本を介した コミュニケーションづくり

教授 村中 李衣
(専門分野：児童文化・児童文学)

長年、小児病棟や児童養護施設、老人介護施設や少年更生施設、刑務所等で、絵本の読みあいを通した柔らかな関係づくりを行ってきました。その実践を通して見えてきた物語の力について紹介していきます。

エピソードで学ぶ子どもの育ち

教授 湯澤 美紀
(専門分野：発達心理学・保育学)

子どもは科学者であり哲学者。子どものふとしたつぶやきに見る自然への鋭い洞察と時に柔らかな人間理解を、森のようちえんに通う子どものエピソードから学んでいきます。そして、子どもの育ちにとって大人の役割とは何か？ あらためて考えていきます。

保育の中の子どもたち

准教授 伊藤 美保子
(専門分野：保育実践)

0歳から5歳児までの子どもたちは、遊びと生活の一つひとつを通して、心身共にめざましい成長を遂げていきます。子どもが夢中になって遊ぶ姿には、いつも心を惹きつけられています。保育の中の子どもたちの成長と、一人ひとりを大切にしている保育の在り方について、映像を通して具体的にお話しします。

算数の文章題が解けるようになりたいな

准教授 杉能 道明
(専門分野：算数科教育・教育実践学)

子どもは算数についてどう思っているのか、なぜ算数を学ぶのかについて確かめます。子どもの算数嫌いの理由の一つとして挙げられる「文章題」について取り上げ、算数の文章題が解けるようにするために大切なことについて一緒に考えていきます。

特別支援教育って、特別なもの？

准教授 土居 裕士
(専門分野：特別支援教育・社会科教育)

日々の学習や生活の中で、苦手さや困難さを感じることはないでしょうか。個々の教育的ニーズに向き合うのが特別支援教育ですが、決して特別なものではありません。特別ではない特別支援教育の世界を体験してみましょう。

児童学科

「心理学」「教育学」「児童福祉学」「児童文化学」
「芸術（美術・音楽）」「特別支援」の分野

You can do it !

准教授 福原 史子
(専門分野：モンテッソーリ教育・家庭教育
・小学校英語教育)

小さいころ、夢中になって何度も繰り返し、ついにはできるようになった経験はありませんか？自分の力でできるってステキですね。そこで、自分の思いや考えを何とか英語で伝える方法を考えてみましょう。

絵本やわらべうたを 楽しもう

准教授 三宅 一恵
(専門分野：幼児教育)

幼い子どもたちにとって、身近な大人が応答的に関わることはとても大切なことです。絵本やわらべうたの実践などはそのために欠かせないものです。子どもたちに読み聞かせたい絵本やわらべうたについて一緒に考え、子ども理解を深めていきましょう。

一生の心と体をつくる幼 児期・児童期の運動遊び

准教授 安江 美保
(専門分野：舞踊教育・体育科教育)

逆上がりのできない子どもが、逆上がりができるようになるには、何から教えたらいいと思いますか。また、そもそも逆上がりができるようになる必要があるのでしょうか。幼児期・児童期の運動遊びについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

保育に生かす絵本選び

講師 片平 朋世
(専門分野：児童文化・幼児教育)

絵本を読んでもらうことは、「楽しい」ものです。では「楽しい」ってどういうこと？保育の中では、子どもが「喜び」を味わえるものを繰り返し読み、仲間と共有して活動に生かしています。事例をもとに、子どもが感じる「喜び」について考えてみましょう。

ストレスって何だろう？

講師 梶原 彰子
(専門分野：臨床心理学・心身医学)

なんだか分からないけどお腹が痛い、頭が痛いというようなことはありませんか。人はストレスを受けると、心だけでなく体に症状がでることがあります。ストレスについて体験して、学んでみましょう。

子どもと一緒に遊びを創る —子どものつぶやきに耳を傾けて—

講師 西山 節子
(専門分野：幼児心理学・保育学)

子どもたちにとって、遊びは大切な学びの場です。保育者は、子どもたちの興味や関心をしっかり捉え、子どもたちのつぶやきをつなぎながら、子どもたちと一緒に遊びを創っていきます。保育現場での経験を基に、具体的な遊びの事例を、エピソードや写真を交えながら紹介します。保育者の仕事にはどんなことがあるのか考えてみましょう。

子どもの世界

—音・音楽とかがわって遊ぶ—

講師 藤掛 絢子
(専門分野：子ども学・保育学（表現・音楽）)

乳幼児期の子どもたちは、遊びの中で、じっと音を聴き、想像を膨らませて音や音楽とかがわっています。そこには、私たちが考える「音楽」の枠組みを超えた、思考や表現の豊かさをみることができます。子どもたちの姿やその育ちを支える保育の在り方について考えます。



Department of
Child Welfare

食品栄養学

「栄養生化学」「食生態学」「栄養管理学」「食品学」の分野

アミノ酸と健康科学

教授 小林 謙一
(専門分野：生化学・基礎栄養学)

アミノ酸は、「からだ」を構成するタンパク質の材料としてだけでなく、「こころ」に関わる神経伝達物質としても重要な役割を担っています。また、アミノ酸代謝の異常が病気と関連することも知られています。そんなアミノ酸と健康との関わり合いについて解説します。

ストレスを測る

教授 戸田 雅裕
(専門分野：公衆衛生学)

個人のストレスを定量的に測定することは、他者との比較、またその軽減や対処手法の確立において非常に重要であると考えられます。本講義では、ストレスに関する基本的事項を述べるとともに、その主観的客観的評価手法について解説します。

食リスクと菌類のかかわり

教授 長濱 統彦
(専門分野：食品衛生学)

ほとんどすべての食品が何らかの有害な要素を含んでいます。菌類はカビ、キノコ、酵母に代表される微生物群であり、発酵食品などを通じて食品と深くかかわっています。これらが関連する食品のリスクについて分かりやすく論述します。

コーヒー香気の薬理学

教授 林 泰資
(専門分野：生理学・薬理学)

コーヒーは、世界で最も消費されている嗜好飲料です。コーヒーと健康に関する研究は数多くあり、糖尿病、肝臓癌、パーキンソン病などのリスク低下が報告されています。本講義では、コーヒーの香りに注目し、その機能性と嗜好性について解説します。

健康づくりのための食育って？

准教授 焰硝岩 政樹
(専門分野：公衆栄養学)

「食育」という言葉はよく聞きますが、具体的に説明できる人は少ないのではないでしょうか。私たちが健康に過ごすためには、日頃から健康づくりのための「食育」を実践することが大切です。自分自身の食生活を振り返り、「健康づくりのための食育」を一緒に考えます。

健康な食事の実践

准教授 小川 眞紀子
(専門分野：調理学・応用栄養学)

日常の食事で健康を保持、増進していくために「何を、どれだけ食べたらいいか」の把握はわりと難しいです。そこで、分かりやすく実践しやすい食育ツールとして、「食事バランスガイド」「3・1・2弁当箱法」の活用について解説します。

糖尿病食は健康食

— 1 日常に役立つ臨床栄養学 —

准教授 小見山 百絵
(専門分野：臨床栄養学)

疾病の治癒改善や予防には栄養状態を良好に保つことが重要であり、そのための学問が臨床栄養学です。食事との関わりが大きい糖尿病を例に挙げながら食事療法について解説し、糖尿病でない方にも役立つ栄養や食事の知識を紹介します。

給食利用者に合わせた栄養・食事管理

准教授 小山 洋子
(専門分野：給食経営管理論)

給食は利用者が規則正しい食習慣を身に付け、より健康的な生活を送るために必要な知識を習得する良い機会です。ではどのような給食を提供すると良いでしょうか。経営面、栄養面、食環境面など多面的な視点から「給食」について考えていきたいと思えます。

食品栄養学科

「栄養生化学」「食生態学」「栄養管理学」「食品学」の分野

どこまで知っていますか？ 糖尿病

准教授 山下 美保
(専門分野：臨床医学)

日本国内の患者数は約950万人、予備軍を合わせると約2,050万人と、実に6人に1人が関係している糖尿病。誰でも耳にしたことがあると思いますが、一体どんな病気で、どのような予防や治療があるのでしょうか。若いうちからその成り立ちと生活上の注意点を理解していきましょう。

食品中の水の不思議

准教授 吉金 優
(専門分野：食品学)

食品に多く含まれる成分として、「水」があります。水分子 H_2O が多数集まった液体状の水は、極めて特異な性質をもちます。この食品中の水の特異性が、食品の保存性、味、物性などに大きく影響し、調理・加工にも大きな役割を果たします。食品中の水の性質について解説します。

行動変容のための栄養教育

—食生活の課題と展望—

准教授 若本 ゆかり
(専門分野：栄養教育論)

健康維持のためには、不適切な食行動を望ましい行動へと改善（変容）することが重要です。行動変容のために求められる教育・指導方法と、不適切な食行動が生じやすいライフスタイルの現状や課題について、関連付けながら解説します。

誤嚥（ごえん）を防ぐ食事があるって本当？

講師 園井 みか
(専門分野：臨床栄養学)

高齢社会になり、誤嚥性肺炎で亡くなる人が増えています。病気や加齢で誤嚥（飲み違い）をしやすくなった人たちにはどんな食事が食べやすいのでしょうか？ やわらかければ良い？ そんな食事について、どんな工夫ができるか考えてみましょう。



Department of
Foods and Human Nutrition

各センター

「英語教育センター」「インクルーシブ教育研究センター」

英語教育センター

英語の音について
考えてみよう教授 小橋 雅彦
(専門分野：英語教育)

- ①「空耳アワー」から分かること
- ②「しりとり」はどんなゲームか
- ③英語の音の中にある最も小さな単位を探ろう
- ④カタカナ英語にさようなら

アクティブ・ラーナーになろう

—英語学習が今より好きになるために

准教授 調子 和紀
(専門分野：英語教育)

アクティブ・ラーニングの手法を用いた英語授業を体験します。「英語で学ぶ」ことに対して、今よりも少し興味・関心を持てることを目指してみます。

英語学習の科学

—データにもとづく効果的な勉強法—

講師 高橋 昌子
(専門分野：英語教育)

英語の習得に、動機づけや、学習方法がどのような役割を果たしているのかについて考えます。英語学習に正解はありませんが、第二言語習得研究にもとづいて、より効果的な英語勉強法を体験してみましょう。

インクルーシブ教育研究センター

共生社会の形成に向けて

～生きづらい子どもたちの生活支援～

教授 山下 美紀
(専門分野：家族社会学)

多様な人々が共生できる社会の実現に向けて、家族、学校、地域生活のなかに潜む、子どもたちを生きづらくしているさまざまな問題を一緒に考えていきましょう。

共生社会の形成に向けて

～インクルーシブ教育ってなんだろう？～

准教授 青山 新吾
(専門分野：インクルーシブ教育、特別支援教育)

インクルーシブ教育は、多様な人々が共生できる社会を形成する基盤をつくる教育です。生きづらさのある子どもたちを含むすべての子どもたちが学び、育っていける教育について、具体的な例を元に一緒に考えていきましょう。

共生社会の形成に向けて

～インクルーシブな心・聴く力、コミュニケーション力の育成～

准教授 日下 紀子
(専門分野：臨床心理学)

一人ひとりが自分と他者を互いに尊重しながら、より心豊かに生きていくためには、相手を理解し、自分をきちんと表現するコミュニケーションが欠かせません。その基盤となる聴く力、コミュニケーション力はどのように育まれるのか、一緒に考えていきましょう。

各
研
究
所

「キリスト教文化研究所」 「児童臨床研究所」

キリスト教文化研究所

日本の児童文化とキリスト教

教授 小林 修典
(専門分野：キリスト教学)

近代日本の児童文化の発展の過程においてキリスト教は重要な役割を果たしました。とくにキリスト教思想に基づくフレーベルの始めた幼稚園教育の日本への移入と、教会関係者によって行われたキリスト教精神を伝える西洋の児童文学の翻訳は重要です。

日本文学とキリスト教

教授 山根 道公
(専門分野：日本キリスト教文学)

日本文学者の中で、キリスト教と深く関わり、それをテーマにした作品を書き続けた作家の代表として、芥川龍之介と遠藤周作を取り上げ、作家の生涯をたどりながら、そこから生まれたキリスト教的テーマをもつ作品について解説し、その現代的な意義を考えます。

台湾先住民族とキリスト教

講師 岡田 紅理子
(専門分野：文化人類学)

台湾において、キリスト教が政治・文化に与えた影響は小さくありません。特に先住民族社会においては、それが顕著です。台湾の歴史を概観しながら、今日に至る先住民族とキリスト教会との関わりを紹介し、キリスト教が先住民族社会に果たす役割を考えます。

児童臨床研究所

子どもと出会う保育学

教授 西 隆太郎
(専門分野：保育学・臨床心理学)

保育は人と人のかかわりによって成り立つものであり、出会いを通してともに育つ相互的な営みです。保育の体験から、私たちは人間について、また信頼関係の原点について学ぶことができます。そんな保育学について、事例を通して具体的にお話します。

“障害”のある子どものより良い成長を支援するために

准教授 東 俊一
(専門分野：障害児心理)

近年、障害のある子どもへの支援の重要性が叫ばれています。では、“障害”とはどのようなもので、障害のある子どものより良い成長を促すために、どのような支援が必要なのでしょう？ その概要について紹介します。